

3月の声を聞いても、肌寒い日が続きます。極寒の頃よりは随分暖かくなっているのに、人はその時の気温に慣れてしまうと、警戒に反応してしまいます。そうはいつても、日だまりの柔らかい土を押し上げて春の草花が顔を出してくるのももうすぐです。我が家の庭の芝桜、たった一輪の小さな花ですが、2月の寒さにも耐え、数回の雪にも耐え、かわいい薄桜色の花を咲かせています。最近、朝姿を見るのが楽しみで、「おはよう」と声をかけている自分に笑ってしまいます。一緒に一冬過ごしてきた小さな仲間・・・「生命」を感じます。

## 外国語教育（英語教育）の成果感じます。

数年前から文科省では、小中学校の英語教育に力を入れています。以前の文法ありきの学習法から英会話重視を取り入れ、子ども達も以前よりは気軽に英語を話せるようになりました。小学生の英語を取り入れる度合いには目を見張るものがあります。大人が構えてしまうようなフレーズも、耳で聞き取り、発しています。教育センターでも、英語教育の充実に貢献すべく、これまで数回の研究会を開いてきました。先日は、町内外で活躍する「ブラウンベア」の方々が、自分達で作ったチャンツ（簡単な英語のフレーズを歌やリズムに乗せて体得させていくこと）を使って英語活動研究員の人達を生徒に見立てて、模擬授業を開いてくださいました。また、数種類のチャンツも用意してくださり、各学校へ配布しました（富士河口湖町独自のチャンツ用CD）。今後の各校での英語活動の大変貴重な資料です。町にこんな素敵な応援者がいることに感謝の気持ちで一杯です。



## 子育て指南塾 第3回

<その4> 外国では、家族がちょっとしたことでも「ハグ」するのが普通ですが、日本では、子どもが小さいうちは何の抵抗もなくするのですが、子どもが大きくなると、親子の触れ合いは皆無になっていきます。近国の韓国や中国でも「ハグ」の習慣があるのに、日本に根付かなかったのはどうしてでしょう。慎ましやかな日本人の性格からなののでしょうか。それでも、子どもはお母さんやお父さんのぬくもりを求めています。叱った時などは、叱ったままにしないで、子どもが自分の非を納得した後は、ぎゅうっと抱きしめてあげてください。「私はあなたが大好きなのよ。」という揺るがない安心感を子どもが持っていることが大切だと思います。小さかった我が子が、思いっきり首に腕を巻きつけ足は腰に巻きつけ苦しいながらも幸せを感じた日々が懐かしく思い出されました。ぬくもりは老若男女を問わず、心の安定剤です。

